【添付資料③】

「脱毛症の起因となる疾患」

<<<後天性脱毛症>>>

◎内因性　◎外因性　◎心因性

「皮膚病変や瘢痕を伴わない」

1）内分泌異常に伴う脱毛症→
- ●甲状腺機能低下症（リンパ球が自分の甲状腺を外敵と見なして攻撃する自己免疫病）
- ●甲状腺機能亢進症（甲状腺ホルモンが過剰に分泌され、体がエネルギーを過剰につかう）
- ●下垂体機能低下症（下垂体の働きを損なってホルモンが不足する）
- ●アジソン病（副腎皮質ホルモンの分泌低下と副腎皮質刺激ホルモン過剰分泌）

2）円形脱毛症（Tリンパ球が体の構成成分［毛根］を異物と誤認して攻撃する）

3）男性型脱毛症（男性ホルモンが関与した男性特有のものでアンドロゲン性脱毛症ともいう）

4）薬剤性脱毛症→
- ●抗悪性腫瘍剤（成長期性脱毛）（細胞分裂の盛んな毛母細胞に対してはガン細胞に対するのと同様に働き、委縮毛を脱毛させます。）
- ●副腎皮質ホルモン（休止期性脱毛）（ステロイド剤の服用が原因）
- ●その他の薬剤（休止期性脱毛）（抗凝固剤、抗精神剤により誘発）

5）外傷性脱毛症→
- ●抜毛症（トリコチロマニア）（欲求不満や精神的ストレスが原因。本人が自覚してないこともある。）
- ●圧迫性脱毛症（花嫁のかつらや手術時の頭部を固定する器具などで圧迫することで起こります）
- ●新生児後頭脱毛症（枕による床ずれ。生まれたすぐは休止期で抜けやすい。お母さんのホルモンの関係ですぐ抜けるが一年後には生える）
- ●牽引性脱毛症（牽引による毛根への過度の負荷が原因で発症）

6）代謝障害や栄養障害に伴う脱毛症→
- ●亜鉛欠乏症候群・鉄欠乏症候群（不足することで体調を崩す）
- ●過度のダイエット、断食（栄養状態の悪化、体調不良が原因）
- ●ビタミンA過剰（ビタミンAは脂溶性なので体内に蓄積されると副作用がでます。頭部では皮膚の剥離）
- ●糖尿病（血液中のブドウ糖が増え、細菌に対する抵抗力が弱くなる病

7）その他の休止期脱毛症→
- ●分娩後脱毛症（出産時に女性ホルモンが異常に増加するため毛髪サイクルが一気に成長期から休止期に移行するため）
- ●外科的ショックによる脱毛症、高熱、ストレス
- ●汎女性ホルモン失調症（男性型脱毛症と異なり、頭髪全体が薄くなります。ストレスや老化、体調などが深く影響します）

「皮膚病変あるいは病的皮膚に伴う脱毛」

1）炎症性脱毛→
- ●SLE（全身性エリテマトーデス）（本症は若い女性に多く、小児は少ない）（成長期性・萎縮毛）（血液中の自己抗体が関与、膠原病の一種）
- ●皮膚筋炎（風邪、梅毒、外傷、などの原因を持たない炎症性筋疾患のこと）
- ●毛包性ムチン沈着症（毛包にムチンが沈着して起こる皮膚トラブル）
- ●接触皮膚炎（ヘアダイなどの薬剤によるアレルギー反応。痒みを伴って浸出液もでる）

2）感染性脱毛→
- ●梅毒（梅毒感染による全身性感染症で起きる脱毛症。頭部への発症は側頭部のみ。頭頂部にはでない）
- ●頭部白癬（白癬菌の感染で起きる脱毛症。手爪、頭部に感染すると重症化）
- ●真菌感染（脂漏性皮膚炎）（皮脂で毛穴を塞がれる事により頭皮の常在菌が異常繁殖しその影響で毛根部近くまで炎症、脱毛に及ぶ）
- ●ハンセン病（らい菌による慢性の感染症で主に皮膚と顔や手足などの末梢神経に病変が生じる）

3）腫瘍性脱毛→
- ●癌の皮膚転移（皮膚以外に原発した悪性腫瘍が血行性、リンパ行性により皮膚に転移）
- ●菌状息肉症（「リンパ腫の進行が遅い」悪性度の低い悪性リンパ腫）

「瘢痕性脱毛症」

1）特殊な細胞浸潤による脱毛→
- ●DEL（慢性円板状エリテマトーデス）（本症は青年から中高年に発症、皮膚局所の抗原刺激や物理的刺激により引き起こされる）
- ●強皮症（全身性と局所性とある。⑴自己抗体産生⑵繊維化⑶血管障害などの要素が絡みあって発症します。）
- ●扁平苔癬（へんぺんたいせん）（薬：金・ビスマス・ヒ素・キニーネ・キニジン・キナクリンや化学物質：特にカラー写真の現像に使われる
- ●深在性毛包炎（梅毒に感染した第2期に起こり頭部側度に円形脱毛を生じる）
- ●慢性膿皮症（ニキビのような細菌感染に伴う炎症が長期間続く状態）

2）感染性脱毛→
- ●ケルスス禿瘡（真菌の感染が起因する脱毛症）
- ●帯状疱疹（水疱瘡菌）（ヘルペスウイルスの仲間の水疱瘡菌・帯状疱疹ウイルスが原因。飛沫・接触感染します。潜伏期間は2～3週間）

3）物理的・化学的原因による脱毛→
- ●熱傷、化学熱傷、大量の放射線（怪我、火傷などの後遺症として脱毛）

<<<先天性脱毛症>>>

1）びまん性脱毛→
- ●先天性無毛症（出生時もしくは生後まもなく脱毛がみられるが、他の身体的異常がない疾患。毛包は欠如ないし委縮しているので自然発毛はない）
- ●先天性乏毛症（常染色体優勢遺伝で髪は脆く10cm以上の長さになりにくい）
- ●遺伝性の症候群に伴う脱毛

2）限局性脱毛→
- ●脂腺母斑（頭部に好発する良性腫瘍・母斑も大きくなると中年期以降、基底細胞癌などの発症母地になることもあるので切除が望ましい）
- ●表皮母斑（アザのようなもので、時に皮膚の悪性腫瘍が合併することもある）

3）瘢痕性脱毛→
- ●吸引分娩・鉗子分娩の外傷と識別する。（表皮・真皮ときに脂肪織にいたる皮膚欠損を認める。委縮し自然発毛は望めない）